

3-②

外国にルーツのある子どもたちの教育分野における現状

滑川 典宏

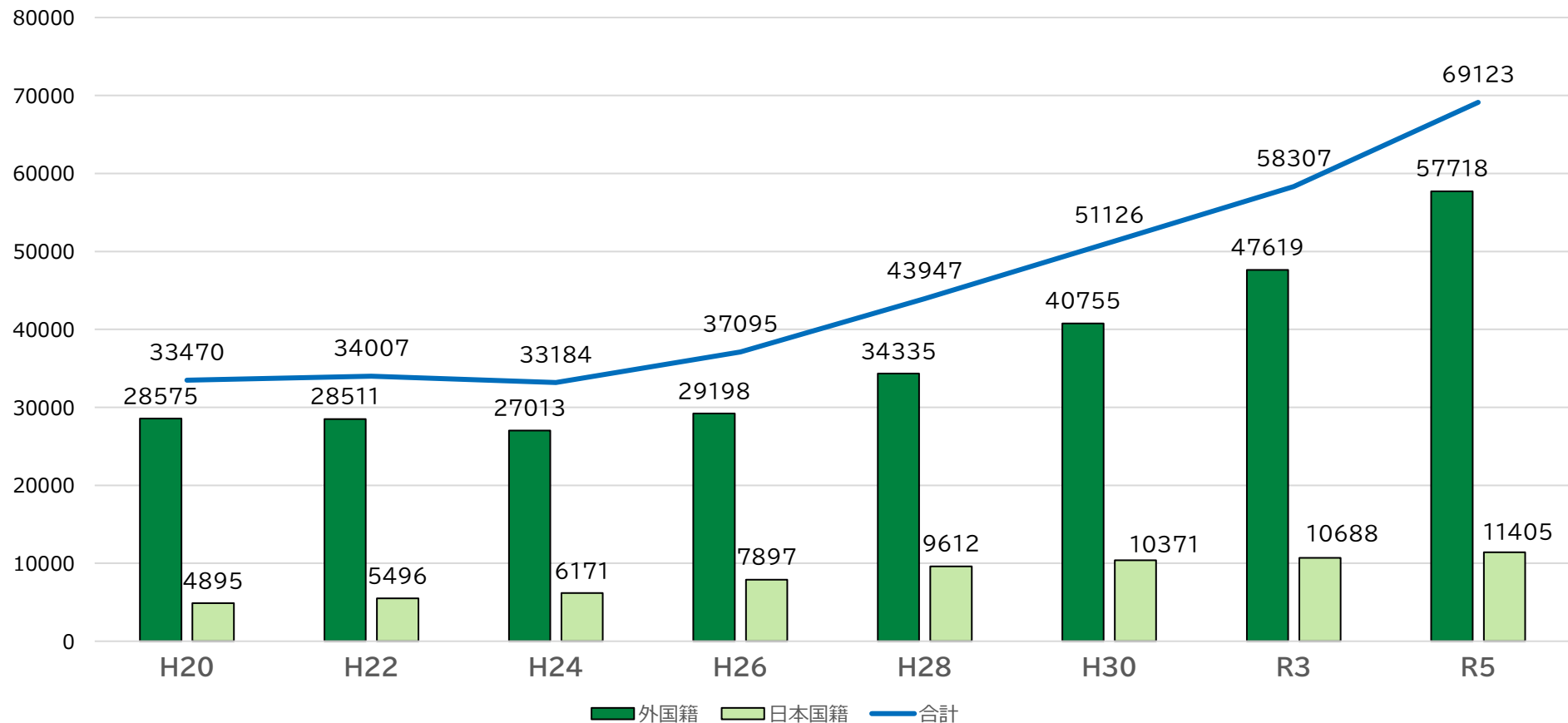
国立特別支援教育総合研究所
情報・支援部 総括研究員

【発行】

国立障害者リハビリテーションセンター 企画・情報部
発達障害情報・支援センター

公立学校における日本語指導が必要な児童生徒数の推移

- ・調査結果: 令和5年度、日本語指導が必要な児童生徒は69,123人
- ・増加傾向: 前回調査より18.6%増加し、10,816人増加
- ・外国籍児童生徒: 日本語指導が必要な外国籍児童生徒は57,718人で21.2%増加
- ・日本国籍児童生徒: 日本語指導が必要な日本国籍児童生徒は11,405人で6.7%増加



令和5年度日本語指導が必要な児童生徒数(校種別)

	外国籍	日本国籍	合計(対令和3年度)
合計	57,718	11,405	69,123(+18.6%)
小学校	38,141	7,991	46,132(+19.1%)
中学校	13,369	2,598	15,967(+16.9%)
高等学校	4,991	582	5,573(+15.9%)
義務教育学校	527	84	611(+46.9%)
中等教育学校	75	37	112(-26.3%)
特別支援学校	615	113	728(+35.8%)

特別な配慮に基づく日本語指導を受けている児童生徒数及び割合

令和5年度	日本語指導が必要な児童生徒のうち、 特別な配慮に基づく指導を受けている 児童生徒数(人)	日本語指導が必要な児童生徒のうち、 特別な配慮に基づく指導を受けている 児童生徒の割合(%)
外国籍	52,176 (43,332)	90.4 (91.0)
日本国籍	9,878 (9,419)	86.6 (88.1)

※()は令和3年度。

「特別の教育課程」による日本語指導を受けている児童生徒数及び学校数

令和5年度	「特別の教育課程」による指導を受けている児童生徒数(人)		「特別の教育課程」による指導を行っている学校数(校)	
	外国籍	日本国籍	外国籍	日本国籍
義務教育段階	37,500 (31,796)	6,809 (6,361)	5,880 (4,943)	2,363 (2,239)
高等学校段階	215	30	33	13

※()は令和3年度。高等学校段階における「特別の教育課程」は令和5年度から制度導入。

特別支援学級に在籍する日本語指導が必要な児童生徒数

表. 令和5年度 特別支援学級に在籍する日本語指導が必要な児童生徒数(人)

	小学校	中学校	義務教育学校		中等教育学校	合計
外国籍	2,143	650	17	7	0	2,817
日本国籍	508	154	3	0	0	665
合計	2,651	804	20	7	0	3,482

外国人児童生徒等の現状～特別支援学級に焦点を当てて～

- ◆ 外国人児童生徒等の特別支援学級の受入状況等が把握されていない
- ◆ 特別支援学級に在籍する外国人児童生徒等の割合が2倍になっている現状が報告される
(日本経済新聞. 2021.5)
- ◆ 一部の地域では特別支援学級が、日本語の支援が必要な外国人児童生徒等の受け皿になっていたり、障害の有無を見極める適切な検査や日本語の学習環境等が整っていない状況が訴えられている(日本経済新聞. 2021.5)
- ◆ 文部科学省は、2023年度に実施した「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査」において、特別支援学級の受入状況等について調査を実施し、全国的な特別支援学級の現状について把握している

5. 増加する外国人児童生徒等への教育の在り方について

(1) 基本的な考え方

- ◆ 外国人の子供たちが共生社会の一員として今後の日本を形成する存在であることを前提に、**関連施策の制度設計を行うことが必要**
- ◆ キャリア教育や相談支援の包括的提供、**母語・母文化の学びに対する支援が必要**
- ◆ 日本人の子供を含め、異文化理解・多文化共生の考え方に基づく教育の更なる取組

(2) 教師等の指導力の向上・支援環境の改善

- ① 教師等に対する研修機会の充実
- ② 教員養成段階における学びの場の提供
- ③ 日本語能力の評価、指導方法・指導教材の活用・開発
- ④ **外国人児童生徒等に対する特別な配慮等**
 - ・ 障害のある外国人児童生徒等に対して、障害の状態等に応じたきめ細かい指導・支援体制の構築
 - ・ 障害のある外国人児童生徒等の在籍状況や指導・支援の状況把握

外国につながるのある子供の特別支援教育に関する研究

—障害のある外国人児童生徒等の学びの充実に向けた事例研究—小・中学校の特別支援学級に焦点を当てて—

在留外国人:358万8,956人(令和6年6月末 出入国在留管理庁)

日本語指導が必要な児童生徒(外国籍・日本国籍を含む):5万7,718人(令和5年度 文部科学省)

出身国の多様化、母語の多言語化→就学、日本語指導、受入体制、指導方法及び教材教具等の課題

第5期中期目標期間(令和3年度～令和7年度)

障害のある外国人児童生徒等の学びの充実に向け、個々の事例をととして「特別支援学級に在籍する外国につながるのある子どもへの指導・支援に関するQ&A(仮)」やこれを基にした研修コンテンツの作成を目指す。

R6年度までの取組

1. 調査研究

➢就学先決定の手続き等

2. 文献・セミナー等

3. 事例収集 等

論 点 整 理



- ・各課をつなぐ
- ・管内のリソース(医療・福祉・各国際関係団体等)
- ・全国ネットでつなぐ
- ・通訳、ボランティア等
- ・関係情報



- ・特別支援教育コーディネーター
- ・国際教育コーディネーター
- ・見立て、指導法、支援事項、配慮事項、評価
- ・学びの場の判断(柔軟に)
- ・ツール(個別的教育支援計画、個別の指導計画等)



- ・特別支援学級等に在籍する外国人児童生徒等の実態に応じた継続した日本語指導の充実
- ・やさしい日本語
- ・ユニバーサルな指導
- ・分かる授業、授業改善の取組



- ・通常の学級担任、管理職、特別支援教育コーディネーター
- ・特別支援学級担任、通級による指導担当
- ・日本語指導担当、国際教室担当、通訳
- ・保護者(対象と対象外)、地域への理解啓発→講演会やセミナーの開催等
- ・研修ガイド(来日(出生)～就学相談～就学～移行～社会へ)

R7年度の研究計画

1. 集住地域、散在地域での事例収集

(特別支援学級での特別の教育課程、

特別支援学級在籍に関わる判断、発達検査等の状況、
地域の支援体制等)

横須賀市/横浜市/豊田市/四日市市/可児市 等

2. 「特別支援学級に在籍する外国につながるのある子どもへの指導・支援に関するQ&A(仮)」 及び研修コンテンツ等の作成

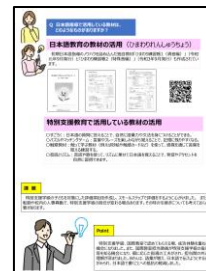


図.「特別支援学級に在籍する外国につながるのある子どもへの指導・支援に関するQ&A(仮)」

研究成果

Q&A(仮)
研修モデル
プログラム活用例
研修コンテンツ 等

成果の活用

- 国際教室担当者
- 特別支援学級担任
- 通常の学級担任
- 国際Co
- 通訳者
- 支援者
- 教育委員会担当者
- 外国にルーツのある児童生徒等の教育委にかかわる関係者 等

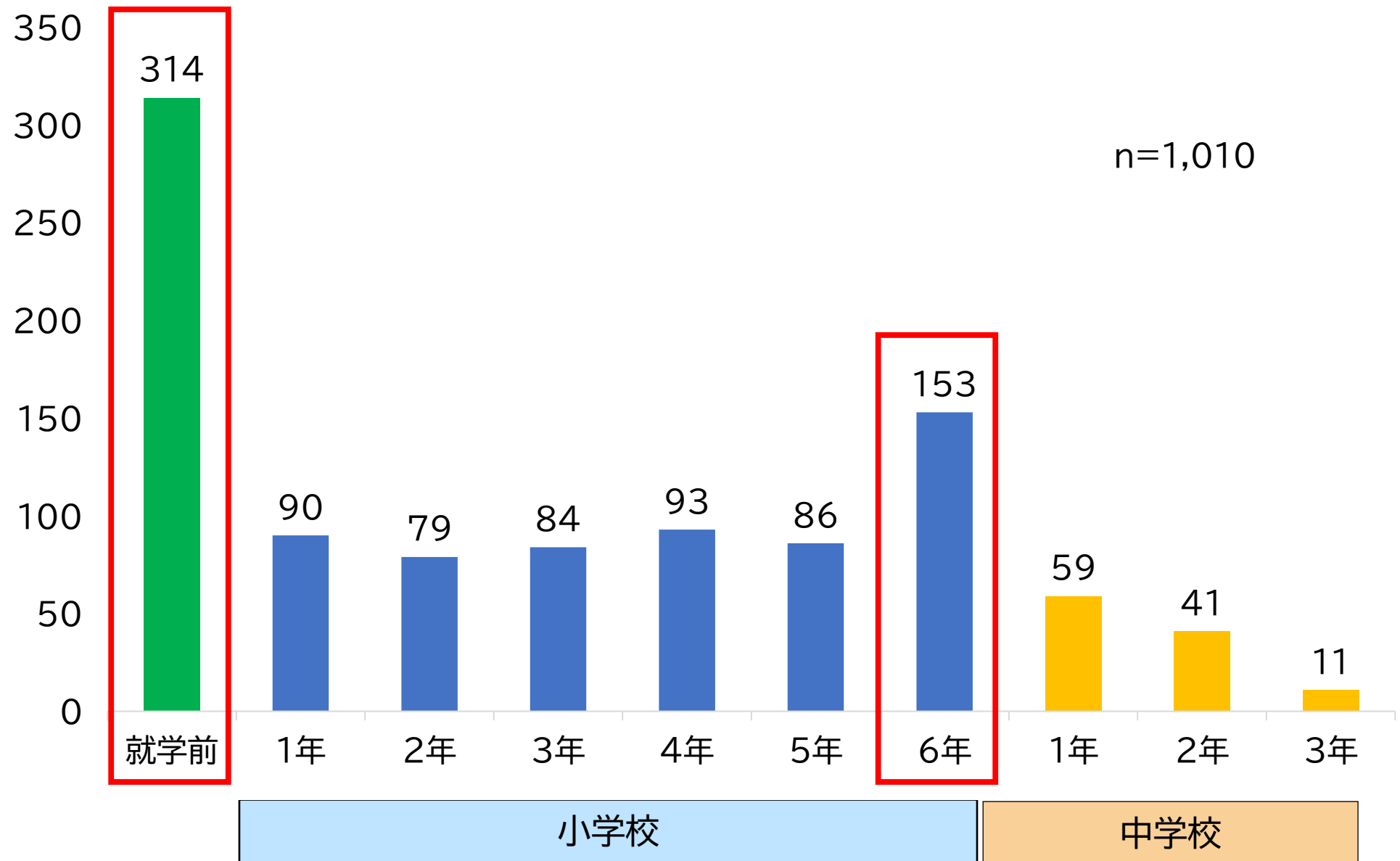
重点課題研究「障害のある子どもの就学先決定の手続きに関する研究」

障害のある子ども等の就学先決定手続きに関する調査

～外国につながるのある子どもの就学先決定 調査結果～

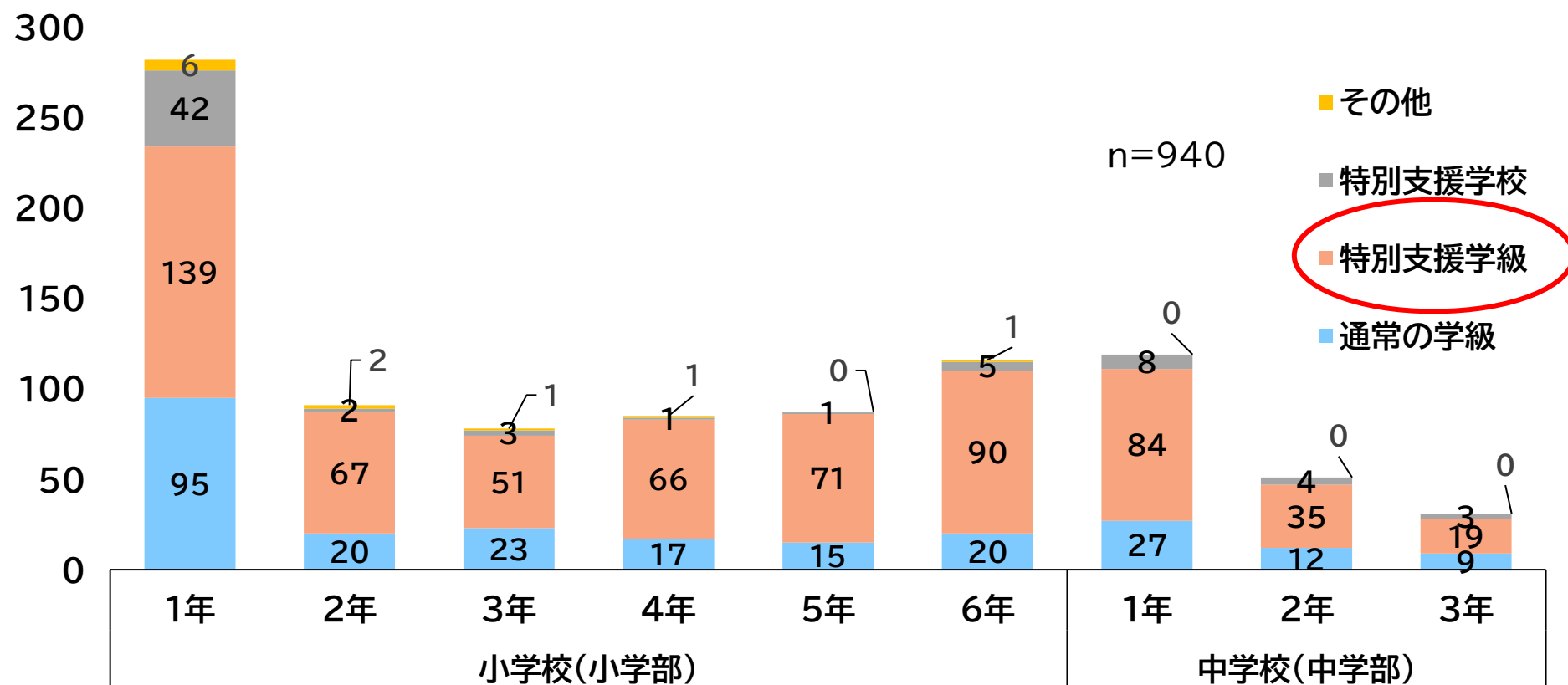


外国につながるのある子どもで、令和2年度に教育支援委員会 等
(就学先決定の検討の場)の対象となった人数

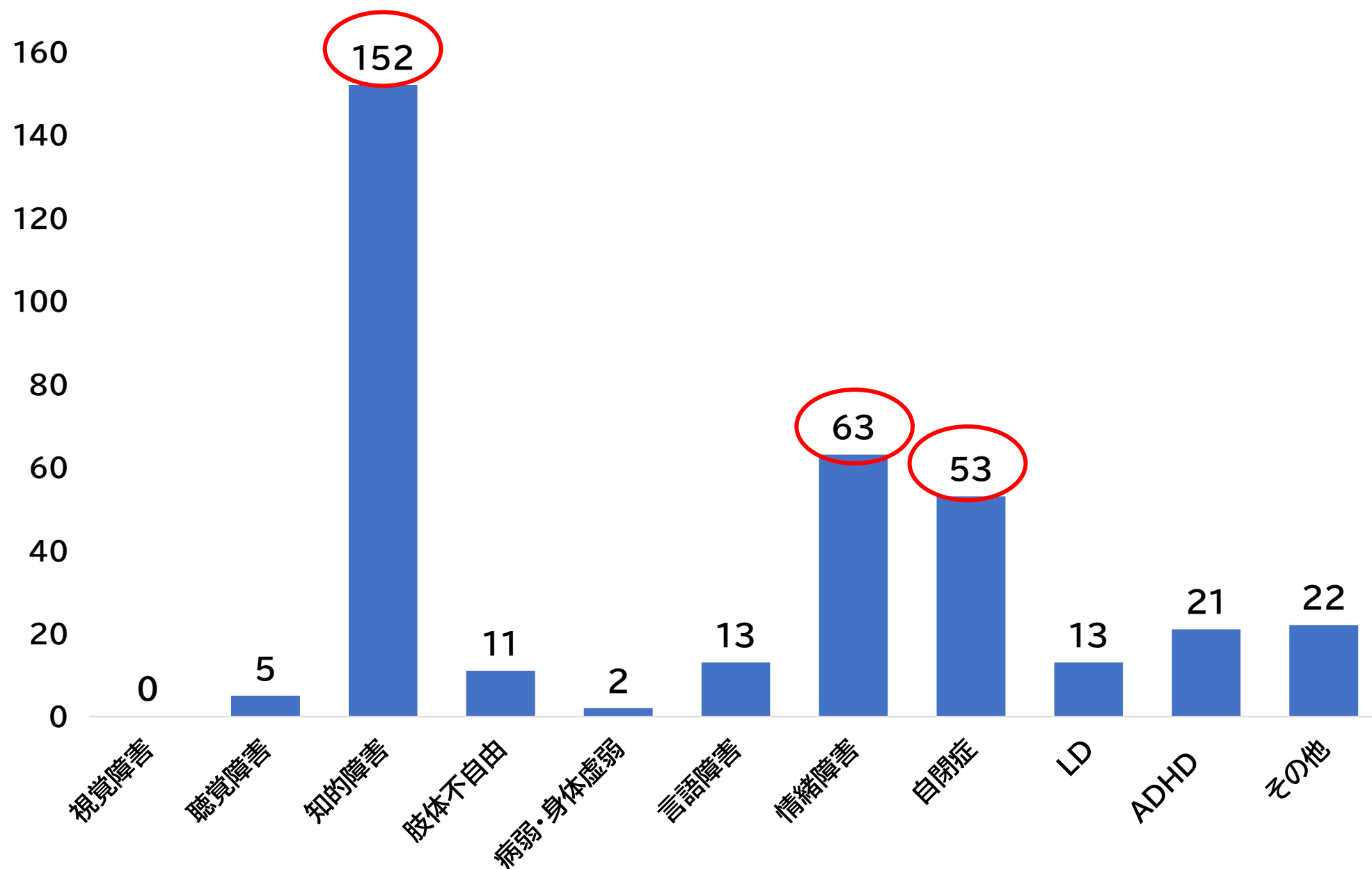


令和2年度に教育支援委員会等(就学先決定の検討の場)の対象となった 子どもの令和3年度の学年ごとの就学先

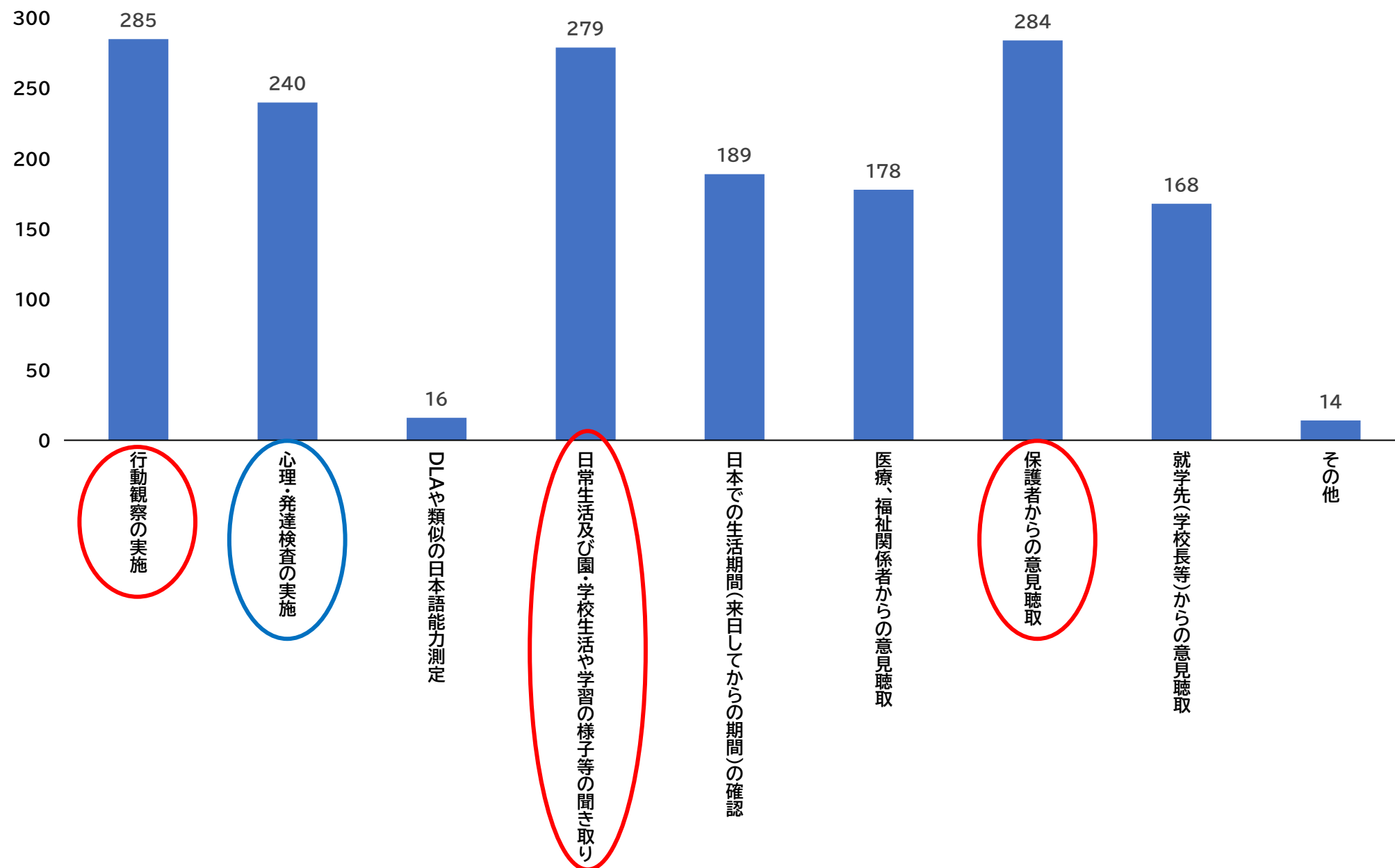
	小学校(小学部)						中学校(中学部)			
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	合 計
通常の学級	95	20	23	17	15	20	27	12	9	238
特別支援学級	139	67	51	66	71	90	84	35	19	622
特別支援学校	42	2	3	1	1	5	8	4	3	69
その他	6	2	1	1	0	1	0	0	0	11



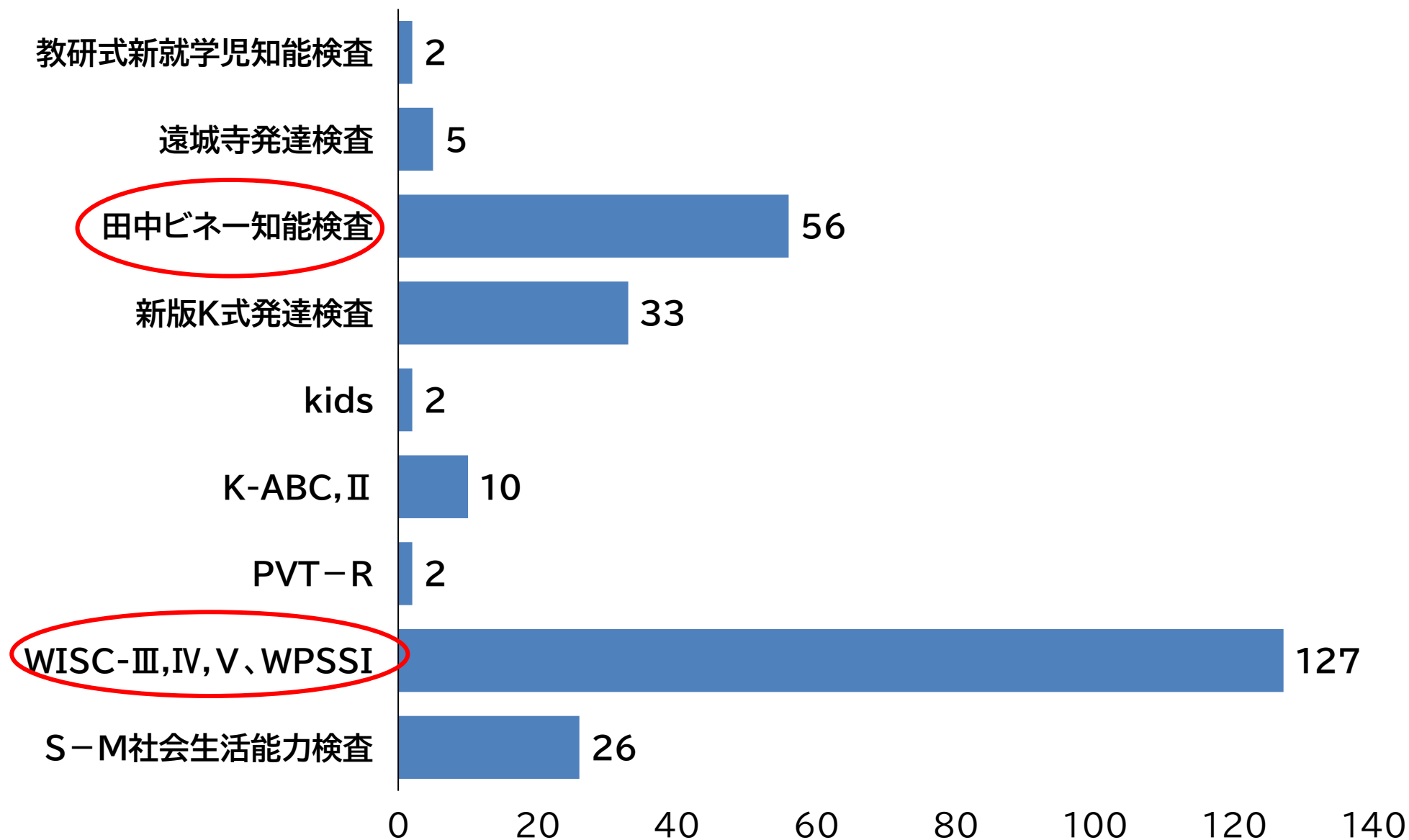
令和2年度に教育支援委員会等(就学先決定の検討の場)の対象でとなった子どもの障害種
(自治体数197)



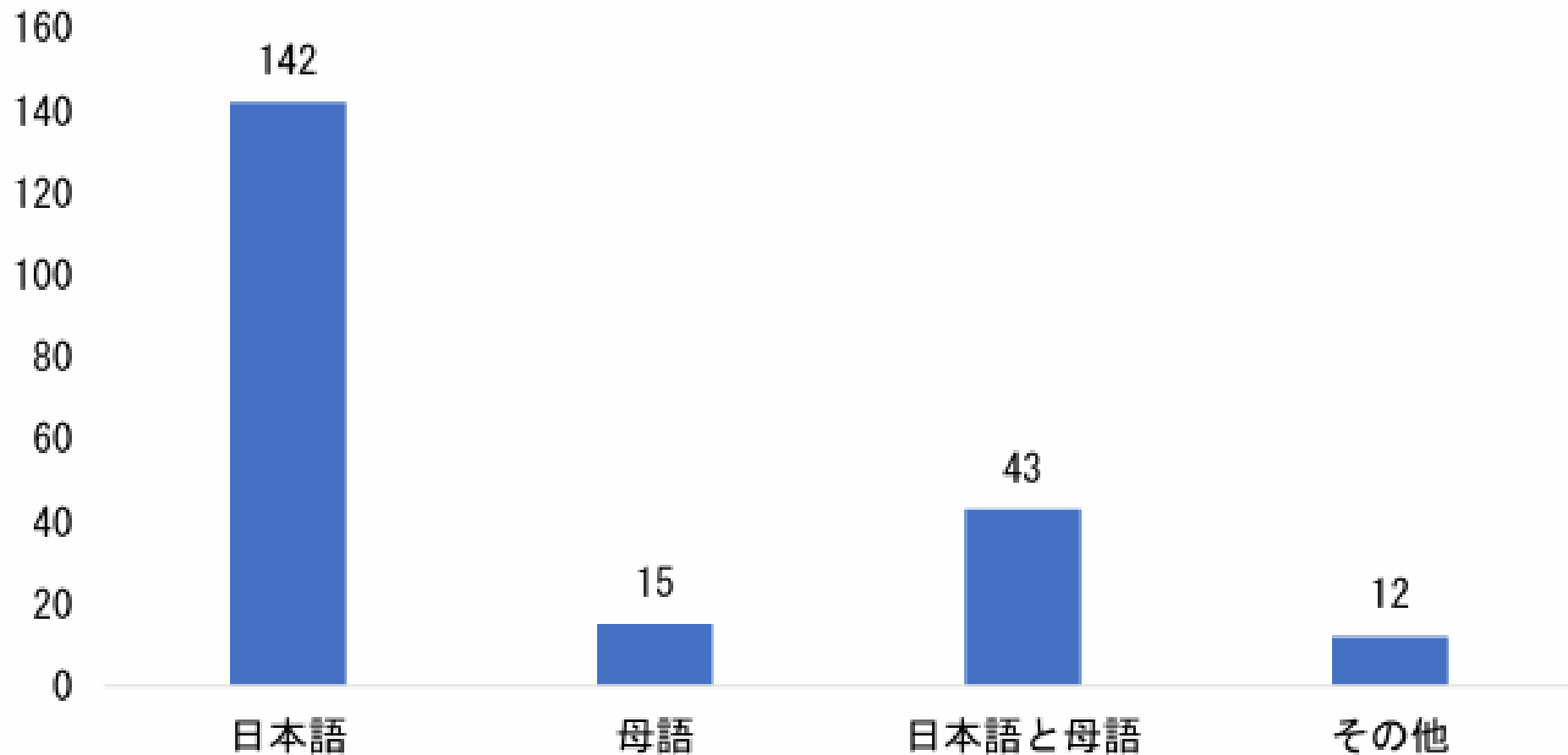
就学先を検討するための審議資料作成に行っている事項について(自治体数285)

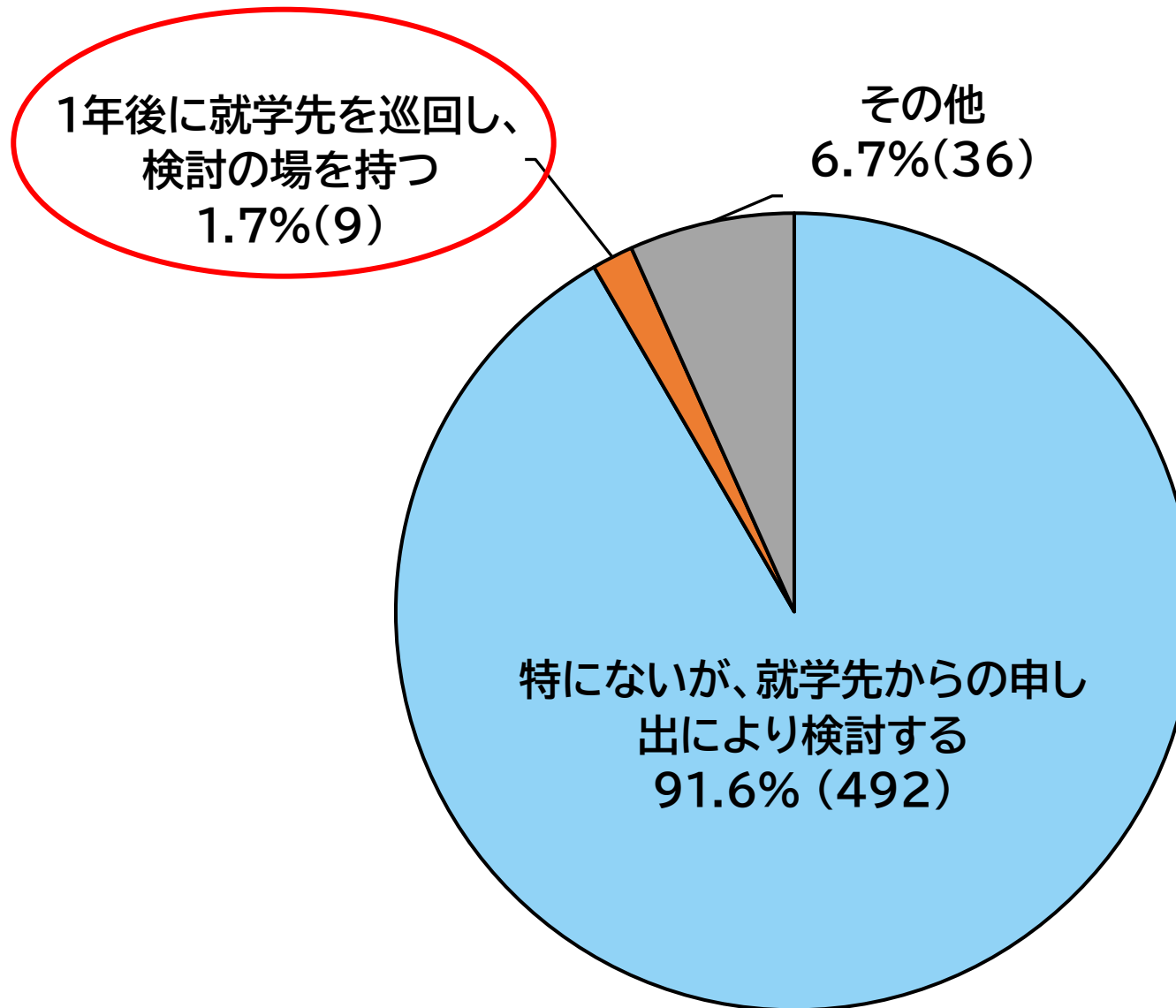


心理・発達検査等の種類（自治体数240）

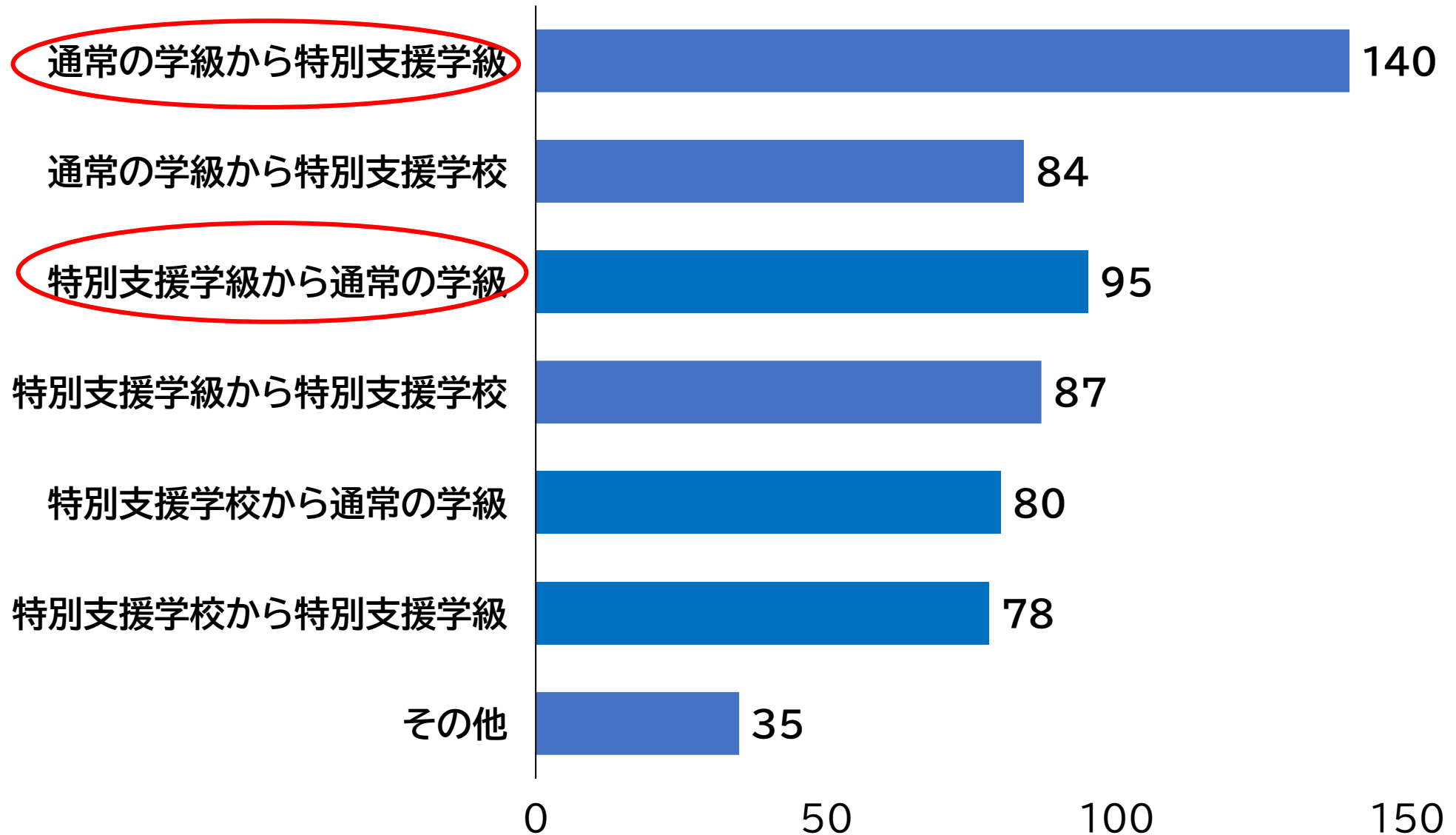


検査の際に使用した言語（自治体数212）

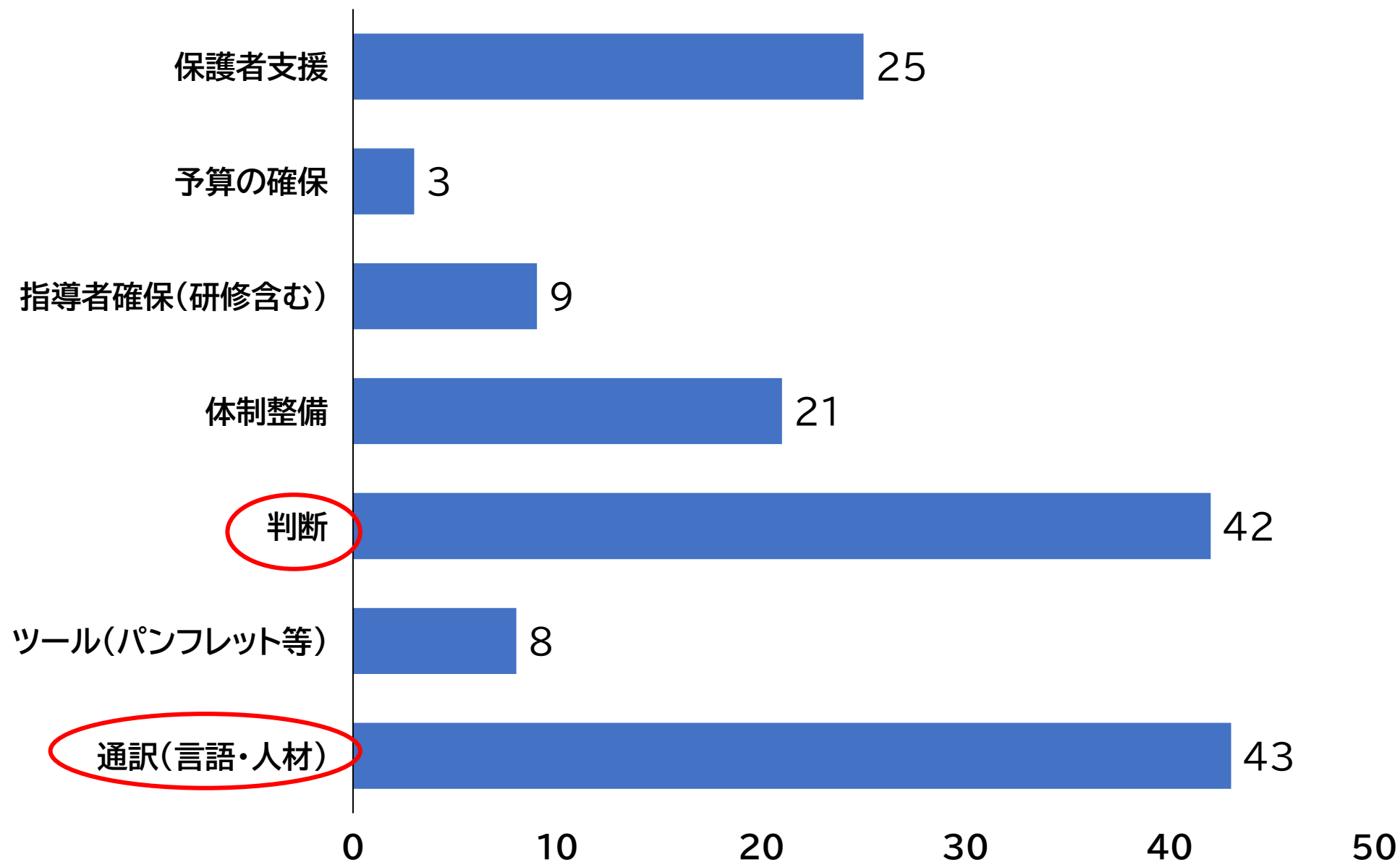




就学先や学びの場の変更状況(人)



外国につながるのある子どもの就学に関する取組の課題点(複数回答)





関係機関・人・情報をつなぐ

- ・ 各課をつなぐ
- ・ 管内のリソース(医療・福祉・各国際関係団体等)
- ・ 全国ネットをつなぐ
- ・ 通訳、ボランティア等
- ・ 関係情報



校内支援委員会等、話し合う場があること

- ・ 特別支援教育コーディネーター
- ・ 国際教育コーディネーター
- ・ 見立て、指導法、支援事項、配慮事項、評価
- ・ 学びの場の判断(柔軟に)
- ・ ツール(個別の教育支援計画、個別の指導計画等)



継続的な日本語指導

- ・ 特別支援学級等に在籍する外国人児童生徒等の実態に応じた継続した日本語指導の充実
- ・ やさしい日本語
- ・ ユニバーサルな指導
- ・ 分かる授業、授業改善の取組



研修・理解啓発

- ・ 通常の学級担任、管理職、特別支援教育コーディネーター
- ・ 特別支援学級担任、通級による指導担当
- ・ 日本語指導担当、国際教室担当、通訳
- ・ 保護者(対象と対象外)、地域への理解啓発→講演会やセミナーの開催等
- ・ 研修ガイド(来日(出生)～就学相談～就学～移行～社会へ)

特別支援教育の視点を活用した支援の実際

第4の2の(2)のイ 幼児・児童生徒の発達の支援

2 特別な配慮を必要とする幼児・児童生徒への指導

- (1) 障害のある幼児・児童生徒などへの指導
- (2) 海外から帰国した幼児・児童生徒などへの学校生活への適応や、日本語の習得に困難のある幼児・児童生徒に対する日本語指導
- (3) 不登校児童への配慮

(2) 海外から帰国した児童生徒や外国人の児童生徒の指導

- ア. 海外から帰国した児童生徒などについては、学校生活への適応を図るとともに、外国における生活経験を生かすなどの適切な指導を行うものとする。
- イ. 日本語の習得に困難のある児童生徒については、個々の児童生徒の実態に応じた指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ計画的に行うものとする。特に、通級による日本語指導については、教師間の連携に努め、指導についての計画を個別に作成することなどにより、効果的な指導に努めるものとする。

- ・ 日本語の習得に困難のある幼児児童生徒を在籍学級以外の教室などにおいて学校生活や学習に必要な日本語の能力を高める指導や、日本語の能力に応じた各教科等の指導などを行うものである。
- ・ 対象となる幼児児童生徒に対する通常の学級における指導と通級による日本語指導の双方を効果的に行うため、それぞれの担当教師同士が日本語の習得状況を含めた幼児児童生徒の状態や変化について密接に情報交換を行うなどの連携に努め、指導の充実を図る。

各自治体の学校での受入れ・指導の流れを把握してみよう

外国人児童生徒等の帰国・来日

市区町村役場(住民登録等)

学校

学校ガイダンス

入学手続きに関する各種説明

在籍校での

入学手続きに関する各種説明

プレスクール
(初期支援教室等)

日本語指導

教科学習支援

生活適応支援

学校

取り出し指導(国際教室等)

【指導の場】

日本語指導 教科指導(教科学習支援)生活適応指導

【指導者】

日本語指導担当教員、日本語指導補助員、母語支援員

在籍級

入り込み指導

教科学習支援

- ・日本語指導担当教員
- ・日本語指導補助員
- ・母語支援員

- ・学級担任
- ・教科担任

(3)具体的な指導内容を設定する際に考慮する点

- ア 児童又は生徒が、**興味をもって主体的**に取り組み、**成就感を味わう**とともに**自己を肯定的に捉える**ことができるような指導内容を取り上げること。
- イ 児童又は生徒が、**障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服**しようとする**意欲を高める**ことができるような指導内容を取り上げること。
- ウ 個々の児童又は生徒が、発達が遅れている側面を補うために、**発達の進んでいる側面を更に伸ばす**ような指導内容を取り上げること。

(3) 具体的な指導内容を設定する際に考慮する点

- エ 個々の児童又は生徒が、活動しやすいように**自ら環境を整えたり**、必要に応じて**周囲の人に支援を求めたり**することができるような指導内容を計画的に取り上げること。
- オ 個々の児童又は生徒に対し、**自己選択・自己決定する機会**を設けることによって、**思考・判断・表現する力を高める**ことができるような指導内容を取り上げること。
- カ 個々の児童又は生徒が、自立活動における学習の意味を**将来の自立や社会参加に必要な資質・能力**との関係において理解し、取り組めるような指導内容を取り上げること。

研究協力校の実践から-① ～特別支援学級と国際教室の協働～

- **特別支援学級**の特徴である**異年齢の集団**の中で学校生活を学びながら、**生活に根差した日本語**を学ぶ場
- **国際教室**は、日本語を学ぶだけの役割だけでなく、日本語が使えず不安な子どもの気持ちに担当者が寄り添ったり、母語で仲間と過ごしたりして、**学校生活の中で『安心』を育む場**
- **特別支援学級**と**国際教室**で学びが、学校生活で**主体的な学びや安心した暮らしの実現**に向けた基礎になる
- **国際教室**と**特別支援学級**の**教材の共有**することでニーズに応じた指導ができる
→**特別支援学級**の担任と**国際教室**の担当者が情報交換や教材を共有の話し合いが行われる

研究協力校の実践から-② ～就学前からの取り組み～

◆ 外国につながるのある子どもの就学前からの取組

- 就学時健診での外国につながるのある児童の**日本語能力検査**を実施
- 幼稚園、保育所等と**連携**を図り、日本語の力等を身に付ける取組
- 小学校で**プレスクール**を実施
- 小学校入学前から上記のように子どもの実態把握、幼稚園、保育所等の**連携して日本の生活習慣、日本語基礎**を学び、**4月**から保護者の希望を踏まえて**国際教室、特別支援学級等**での指導を開始

研究協力校の実践から-③ ～アセスメントを活用した指導・支援～

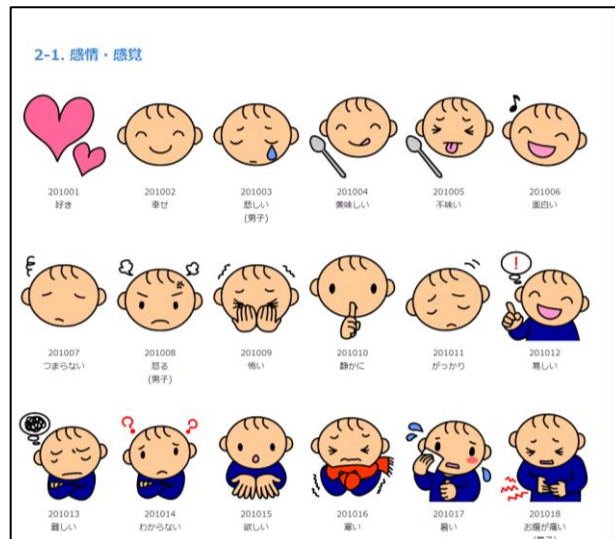
◆ **グットイナフ人物画知能検査** 等の子どもの実態に即した検査の活用

- 普段から**絵を描くことが好き**なため、課題にすぐに取り組むことができた。
- 他の検査は受けることができなかったが、**潜在的な知的レベル**を特別支援学級担任が知ることができた。**教科学習の可能性**について検討することができた。
- 入学後の**学習の様子等**や「グットイナフ人物画知能検査」から、**授業内容を見直し、子どもの力を発揮**するきっかけになった。

※ 家庭で弟に日本語を教える姿がみられる。また、文化的、言語的に多様な背景をもつ外国人児童生徒等のための対話型DLAの実施が可能になる。

研究協力校の実践から-④ ～特別支援教育で活用する教材等の活用～

- ・ 特別支援教育で活用している絵カード、ワークシート等の教材の共有
- ・ 特別支援学級や国際教室で活用している教材の共有
- ・ 隣の国際教室で歌っていた歌をいつの間にか特別支援学級の子どもたちも歌えるようになる。



【参考】ドロップレット・プロジェクト
https://droptalk.net/?page_id=116

【参考資料】はじめてのきくきくドリル(文英堂)

研究協力校の実践から

研究協力校の取組を通して

- 分け隔てない学校生活をおくる子どもたち
- 国際教室と特別支援学級で教材の共有、学びの場について意見交換
- 通常の学級、国際教室、特別支援学級、通級指導教室等の多様な学びの場、
個々の実態に応じた学びの検討
- ICT機器を活用し、外国につながりのある子ども、特別支援学級の子ども等、
みんながわかりやすい授業の工夫
- 国際教室、特別支援学級の子どもが所属感を感じ、生き生きとした学習
- たくさん褒めてもらい、認められることで、安心感を得て、アイデンティティの確立
- 外国につながりのある子どもたちが日本語がわからない子どもに教え合う姿

国立特別支援教育総合研究所のホームページの活用



独立行政法人
国立特別支援教育総合研究所
National Institute of Special Needs Education

Google 提供

印刷

English

本文へ▼

文字サイズ 大 中 小

表示色 標準 1 2

お問い合わせ

ホーム	特総研とは	研究	研修・セミナー	報告書・資料	各障害における 関連情報	English
ここから始めよう、 特別支援教育	発達障害のある子供の 指導・支援のヒント	研究者情報	特別支援教育 専門研修	サイトマップ		

特別支援教育リーフシリーズ







「特別支援教育リーフ」刊行

国立特別支援教育総合研究所では、小・中学校等で初めて特別支援学級や通級による指導を担当する先生、特別支援教育について学ぶ機会がなかなか得られなかった先生に向けて、障害のある児童生徒がそれぞれの学びの場でより良く学び充実した学校生活を送れるようになるためには、どのように取り組んでいくと良いか考えていくためのきっかけとなる内容をまとめ、取組のヒントとなる情報を記載した「特別支援教育リーフ」を作成しました。

詳しくはこちら ▶

特別支援教育リーフシリーズ



NISE学びラボ





令和7年度 盲ろう教育実践セミナー

第1回 8月21日(木)
第2回 10月2日(木)
第3回 12月24日(水)

オンライン
配信



再生 ▶ 停止 ■





独立行政法人

国立特別支援教育総合研究所

National Institute of Special Needs Education